

事例報告 H27-5

団体名： 学校法人 YMCA学院高等学校

プログラム名： 森林体験（YMCA学院高等学校）

(1) プログラムの目標	①多様な森林の機能を理解する ②森林を守ることについて、きちんと考える（日本と世界の森林の違い） ③実際に森林に入り、間伐活動を体験する ④日頃、森林で活動しているボランティアや仕事をされている方から話を聞き、学ぶ
(2) プログラムの概要	50分×8コマ（4コマ 教室座学、約4時間 野外実習） 座学では、森林の機能や日本と世界の森林の違い、日本の戦後の森林の歴史を学び、野外実習は間伐体験を中心に行う。

(3) プログラムの展開

時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
2 (1日目)	森林について知ろう 森林の特徴や機能、日本と世界の森林の違いと状況を座学で学ぶ	特に森林が持つ多面的な機能については、時間をかけて、生徒たちに考えさせて、森林が自分たちの生活とは切り離されたものではなく、気づいていなかったかもしれないが、森林からたくさんの恩恵を今も受けていることを実感させる。
4 (2日目)	野外実習（間伐体験） 間伐など森林の管理作業を体験する。市民団体の方に受け入れてもらい、お話や交流も行う。 	座学で学んだことを、実際に体験し、実感する。また、市民団体の方に活動のお話を聞いたり、森を紹介してもらったり、木の特徴を説明してもらおう。 森林の問題を解決したいと思い活動、仕事をされている人の話を聞くことで、そういう仕事の選び方や時間、お金の使い方があることに気づいてもらう。  
2 (3日目)	日本の森林の歴史や仕事を知ろう 戦後の日本の森林の歴史を知る。ゲストスピーカーとして、箕面森林ふれあい推進センターの方の話を聞く。	1日目で今の森林の状況を理解したが、どうしてそこに至ったか、今まで日本は森林をどんな使い方をしていたかの変遷を知る。その上で、国有林の管理をしている箕面森林ふれあい推進センターはどんな仕事をし、どんな人が働いているのかを知る。センターの方には仕事内容だけでなく、どうしてこの仕事を選んだのか、働いていてどう感じているかなどを話してもらおう。

(4) プログラムでの連携内容（①学校、②地域）

①学校の授業の一環として行っている。 ②大阪府下で活動するNPO法人森林ボランティア竹取、NPO法人里山倶楽部の方に実習の受入、活動の紹介や活動への想い、困っていることなどのお話してもらっている。また、箕面森林ふれあい推進センターの方に森林のお仕事について話をしてもらっている。このプログラムは学校だけで行えるものではなく、市民団体などの協力のおかげで、開催できている。
--

(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目		
3 多面的	森林からどんな恩恵を受けているか、一人ひとりに答えてもらった。森林が水、空気、災害防止とつながっていることに気づけた。また、薬や医療という面でも恩恵を受けていることは、生徒によっては非常に身近に感じるようだった。 少し前は、森林でエネルギーを得ていたことに関しては、かみくだいて話さないと、生徒たちはピンとこない。	
4 現状・課題	木を切ることは悪いという意識は、ほとんどの生徒にあるが、日本と世界の森林は違い、森林を守ることを考えるとき、どこの森を守るのかということを意識することが重要であることに気づいてもらう。座学だけでは忘れてしまうが、実習もするので、特に日本の森林の課題については、ある程度の認識を定着させることができる。	
5 管理・維持	実際に間伐を行うことで、具体的なやり方や管理維持している人たちの苦勞、やりがいの話も聞ける。その中で、今の自分、これからの自分に何ができるのか。どうかかわっていけるのかを考えるようになる。	
教科	項目	学習内容
		高校の授業の中で、特に学習指導要領意識はしていない。不登校だった生徒もいるので、積み立てた学習の一環というよりは、どちらかという、学校の生徒の傾向や個々の生徒に合わせるように意識している。
(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)		
3 多面的	「木を切ってはいけない」という意識が定着している生徒たちに、なぜ切ってはいけないのか、森林とはどういうものかを色々な方向から考えることで、ただ「〇〇をしてはいけない」「〇〇をしよう」というキャンペーン的な教育から脱却し、状況や場所を知ったうえで様々な方向から考える力を養う。	
6 つながり	自分と森林はつながっているという意識を森林の多面的な機能を掘り下げの中で感じてもらう。森林が自分とどうつながっているのか、森林がないとどういう問題が起こるのか、改めて考えることで、生徒は色々な発見をしていく。	
7 参加	のこぎりや斧をつかう間伐作業に、最初は難色を示す生徒もいる。また、互いに協力しないとできない作業もある。しかし、野外で一定の時間をすごしていると、心がほぐれ、やったことがないことに挑戦できたり、話したことがない人とも一緒に作業ができたりする。そのことで、今までより前向きになれる生徒もいる。	
(7) 実施後、参加者の変化		
野外での活動は、初めてのことも多く、生徒たちの多くにとって印象に残る授業である。 また、ゲストスピーカーの話も、多くの生徒が親や教師以外の大人との接点が少ないので、刺激も大きい。 レポートを見ていると、多くの生徒が、森林の認識を変え、大切にしたいと思うようになり、また、ボランティアなど森林で活動することが身近になっているように思う。		

キャリアデザインも考え 「森林体験」授業

単位制、・通信制高校の選択科目「森林体験」 15人定員
教室座学 50分×4コマ + 野外実習 約4時間

- ①多様な森林の機能を理解する
- ②森林を守ることについて、きちんと考える（日本と世界の森林の違い）
- ③実際に森林に入り、間伐活動を体験する
- ④日頃、森林で活動しているボランティアや仕事をされている方から話を聞き、学ぶ



授業のポイント

市民団体の方に直接指導

ボランティアやNPOで働く人に直接話を聞ける機会。異年齢交流にもなる。



受入:

NPO 法人 森林ボランティア竹取物語の会
NPO 法人 里山倶楽部

森林を仕事に就く方のお話

箕面森林ふれあい推進センターの方に仕事内容、動機や仕事の感想を聞く。高卒の公務員の方の話も聞ける。



これから、就職も含めた進路を選んでいく高校生には、単に知識や日常の行動変容を求めた授業ではなく、森林を仕事や生きがいとしている人生の先輩たちに会うことで、森林保全活動を人生の選択肢の一つに加えてもらうような授業をめざしている。